

部 会 報 告

ISO/TC 127/SC 2/WG 16 (ISO 13766 土工機械—電磁両立性)
2015年6月ドイツ・フランクフルト市 国際作業グループ会議報告

標準部会 ISO/TC 127 土工機械委員会国際専門家 (Expert)

吉田 克美 (コマツ)

2015年6月に国際標準化機構 ISO の専門委員会 TC 127 (土工機械) 傘下の国際作業グループ ISO/TC 127/SC 2/WG 16 (ISO 13766 土工機械—電磁両立性 改正) 会議がドイツ国フランクフルトアムマイン市で開催され、協会標準部会 ISO/TC 127 土工機械委員会から国際専門家 (Expert) として出席した吉田氏の報告を紹介する。

- 1 開催日：2015年6月18日
- 2 開催地：ドイツ国フランクフルトアムマイン市 ドイツ機械工業連盟 VDMA 会議室
- 3 出席者 (敬称略)：18名
ドイツ (DIN) 11名, 米国 (ANSI) 2名, 英国 (BSI) 1名, フランス (AFNOR) 1名, スウェーデン (SIS) 1名, チェコ (UNMZ) 1名, 日本 (JISC) 1名
- 4 会議概要：

これまでの議論をまとめる形で、2015年5月19日投票期限の CD 13766-1, -2 結果報告があり、その際に提出された各国意見 (主に技術的な項目) について審議した。

文法的な修正とあわせ、技術審議内容を反映させた DIS 案文を事務局で準備し、同年8月7日までに WG メンバに送付される。各国メンバは～同年10月5日までに意見を連絡することとなった。

また、事務局は DIS 案文がまとまったところで対面会議 (10月初め) の可否を決め、必要時に招集することとなった。

投票の結果、各国意見を改めてまとめたものが配布され、これに審議結果を加筆した上で、後日資料送付された (協会事務局より国内関係者に送達)。

次回まとめ案が DIS として ISO 中央事務局へ送付される為、必要に応じて日本意見を示す必要がある。

なお、CD 案について国内意見交換を行ったが、修正要求など大きな指摘事項はなく、推移を見守ることとなった。今回の審議での主な論点は以下の7項目。

Part 1 :

- ①車両 BCI 試験の位置付け
→ EMC 試験室に入らない建設機械に対する「放射電界試験」の代替とする。
- ②車両 BCI 試験の適用周波数範囲
→ 適用試験周波数は 20 ~ 1000 MHz。1 ~ 2 GHz は放射電界試験を要求。
- ③屋外での放射電界試験の実施方法
→ 1GHz 以上の周波数に対して車体ハーネスへの印加ではなく、高周波としての直接的影響が懸念されるとのことで、BCI による代替試験法は却下。実施方法の例示はあったが、具現化で議論が出た。
- ④ EMC 指令への対応
→ DIS 13766-1 附属書に示される予定 (Part1 が EMC 指令の要求レベル)。

Part 2 :

- ⑤試験要求値の整合性
→ Part 1 と Part 2 で、放射電界での要求値と代替試験方法での要求値との比率に差がある。参照規格との整合性を含め、技術的な検討を行い、案文に反映させるとのことであり、事務局で補充する。
- ⑥車両での 2 ~ 2.7GHz 試験
→ BCI/TWC 法の提案があったが却下された。放射電界試験が基本と示され、EMC 試験室に入らない建設機械については Part 1 での議論と同様とのこと。屋外での具体的な実施方法への議論が出た。
- ⑦ Table 1, 2, 4 にある FS の意味
→ Functional Safety ではなく、Fail Safe の略と確認された。

以上

JICMA